

赤水の業績、絵本で紹介

顕彰会発行 地図作成や天文学

高萩市出身で、江戸時代の儒学者・地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の業績を子どもたちに伝えようと、長久保赤水顕彰会が絵本「小わく星ナガクボ」を発行した。経緯線のある日本地図「改正日本輿地路程全図（赤水図）」を作成したことや天文学の業績を紹介。同顕彰会では、地元の小中高校や県内の図書館などに絵本を寄贈し、広く読んでもらいたい考えだ。

同顕彰会による絵本の発行は2冊目。同会員の時崎清さん（72）＝同市＝が絵と文を担当した。2021年から今年にかけて制作し、3月に発行した。絵本では、1779年に

赤水が赤水図を完成させ、翌年春に世に出し、その後、100年近く版を重ねて使われたと紹介した。天文学の学びから、土地の位置や距離をより正確に表そうと、経緯線が引かれている

とした。

天文学者としてもスポットを当て、赤水が58歳の時の天文暦学に関する著書「天象管闕鈔」に閉じ込まれた「回転円盤星座盤」についても記載。巻末コメントの中で、国立天文台の渡部潤一氏が「日本で初めての星座早見盤といっても過言でない」とも述べている。

絵本の最後には、2017年の赤水生誕300年に当たり、前年に業績をたたえて小惑星の一つに「ナガクボ」と名付けたことを紹介した。

時崎さんは「赤水が相当勉強して地図を作った苦労が、絵本を通じて子どもたちに伝われば。赤水図に関心を持ってもらい、さらに親しんでほしい」と話した。同顕彰会の佐川春久会長



小中高校や図書館などに発送した、長久保赤水顕彰会の絵本「小わく星ナガクボ」と著者の時崎清さん＝高萩市下手綱

（73）は「たくさんの子どもたちにぜひ見てほしい。赤水の天文学の業績についても知ってもらいたい」と期待を込めた。

絵本は4千部発行。地元の小中高校や県内の図書館、博物館などを含む全国に約2300部を寄贈した。1冊1100円で、教科書を扱う県内の書店や、同顕彰会が郵送で販売する。同顕彰会への問い合わせは佐川会長☎090（1846）6849。

（磯前有花）